

切り替えるときが、地域GXのチャンス。



新しい仕事を増やすのではなく、今ある仕事の「判断」をもっと良くする。



CGOとは、地域GXを前に進める“つなぎ役”。

CGO = Chief Green Officer | 肩書きそのものより、地域GXを部局横断で前に進める機能が大切



CGOの役割は3つ

① 全体最適する

部局ごとの正解を、自治体全体の最適解へ



② 判断を前に進める

一つの部局では決められない課題に、優先順位と方向を示す



③ 続く仕組みにする

一度の挑戦を、計画・予算・標準・通常業務へ



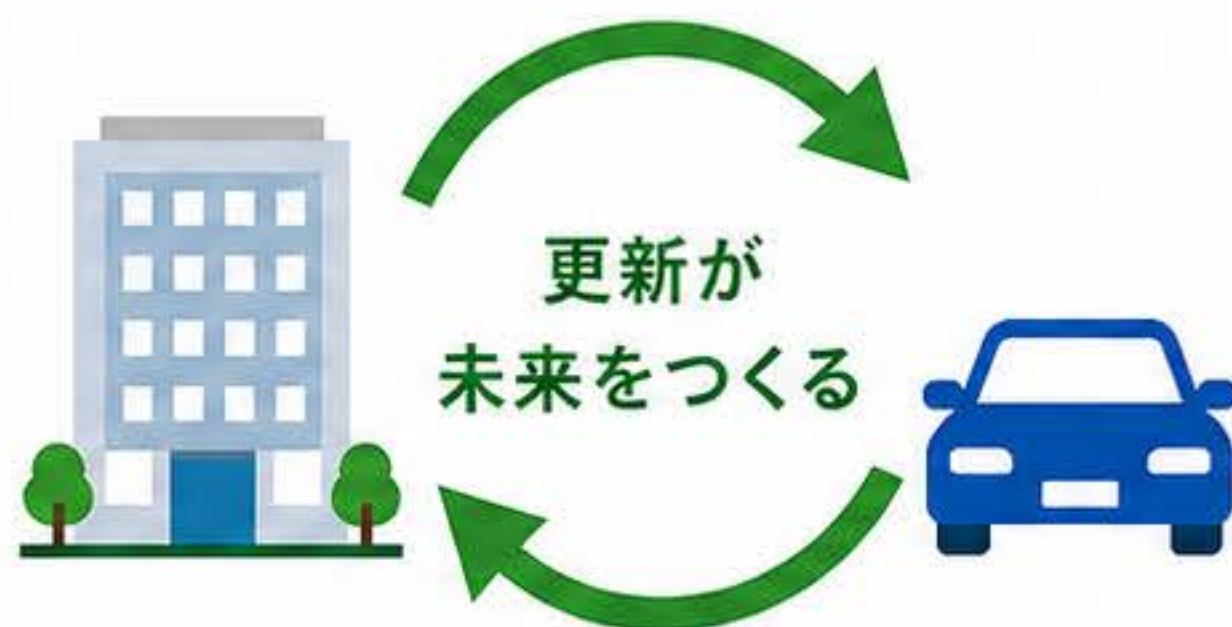
CGOは、部局をつなぐだけではない。自治体全体で判断し、実行し、続けられる仕組みをつくる。

今日、注目していただきたい3点。

公共施設も公用車も、この3つの視点で見る

① 更新時がチャンス

建て替え・買い替えの瞬間に、
次の10年・20年・30年が決まる



今の判断が、将来の負担と価値を決める

② 個人の取組を 仕組みに変える

一人の工夫や挑戦を、
担当者が替わっても続く形へ



公共施設 = 標準化

公用車 = 全体最適

③ 部局をつなぐ

財政・営繕・管財・防災・環境の
知恵を合わせ、自治体全体で判断する



つなぐことで、より良い解が生まれる



この後は、技術の細部だけでなく、自治体の仕事の進め方にも注目してご覧ください。

公用車GXは、「EVを何台買うか」から始まらない。

3自治体の“現在地”は違う。だからこそ、自分たちの次の一步が見えてくる。

葛飾区

まず現在地を知る



- 219台を保有



- 総務課で一括管理



- 予約・記録を電子化

次の一步：利用実態を見える化し、
更新・配置を考える

小松市

各課の車から、 全庁の資産へ



- 見える化
- 共用化
- 台数・配置の
全体最適

データとルールで、
使いやすい仕組みに変える

釧路町

防災から始め、 まず入れて、使って、確かめる



- ブラックアウトが出发点



- EV・PHEVを導入



- 寒冷地で実際に利用



- データで次の改善点を発見

台数・配置・充電の最適化はこれから



現在地を知る



見える化する



全体最適を考える



EV/PHEV・
防災活用へ

※釧路町は、防災から導入が先行し、今データで次の改善へ



公用車GXは、「EVありき」ではなく、地域課題・現在地・実際の運用から考える。

一つの成功を、自治体の力に変える。

公共施設も公用車も、一步を仕組みに変えていく。



CGOは、新しい脱炭素の仕事を増やす人ではありません。
今ある仕事をつなぎ、判断を少し変え、その学びを組織に残していく機能です。



明日から
始めるなら



次に更新する「**1施設**」と「**1台**」を確認する。

そこに、財政・営繕・管財・防災・環境の知恵をつなぐ。

